

21

No.

No. 2

のことに就いて考へても、一日の半にわたる
けり人召か、この地球上に生れたる人なり
しこの如きかと思ふと、私にその想像するに
けりも不思議に思ふた。の如。

こんな子供も考へない。平凡な平定を、今
更物珍らし、よく不思議かゝるは、一丁馬鹿や
切つてぬきやうに思はれるが、備しこ
れと自分の問題として考へる時、誰しも無類
に真面目にたゞおぼろにみるまい。實際、こ
の生死を運 観 一には、この人生に何れかの

の生死

あり得ないの如から。

——人間の生死、私はいくら考へても、こ
の位神秘的、不可思議たるは無いと思ふ
のりや。誰か自分から生れやうと一々生れ
来るとは無いし、また死なうと一々死ぬ者
ない。月並の之を方知か、おん 在英確高傑
も、人間の歴史が却てうと出来、これに支配
するたしいものは一人もないのりや。
そんなら、この生死を支配する力はどのか
ら来るのが、科学者は言ふから、自然の法

中沢静雄

十ノ廿松屋製